vol.37

2017年7月3日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局 本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7 レジデンスアロー 101 TEL&FAX 086-284-9700 E-mail:hginfo@hofg.org

URL: http://www.hofg.org/





競技会での立位(義足)競技の様子



記録測定の様子



競技会での重いす競技の様子

## 「共生型スポーツの普及支援事業」

平成 28 年度戦略的二国間国際貢献事業 (スポーツ・フォー・トゥモロー) プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

ハート・オブ・ゴールド は2017年1月から3月に、 スポーツ・フォー・トゥモ ロー事業の一環として日本 スポーツ振興センターから 再委託を受け、カンボジア パラリンピック委員会と協 力して障がい者陸上発展プ ログラムを実施しました。

1月30日、31日、2月1日には 日本パラ陸上競技連盟会長で日本福 祉大学の三井利仁教授と日本大学の 近藤克之講師を招聘し、立位と車い すそれぞれのトレーニング・ワーク ショップを実施しました。専門的な 技術指導を受けたことがないコーチ や選手にとっては、これまでの練習 方法を見直し改善する良い機会とな りました。

その後、ワークショップで学んだ ことを取り入れて各自が練習を重 ね、3月の上旬まで、週1回、約2 時間程度、計4回、オープンクラス という形で、障がい者の選手とコー チを対象とした振り返りの時間を持 ちました。この中では、ワークショッ



競技会の閉会式後の集合写真

プで学んだことを再確認したり、体 力測定をしたりして、学びを深める と共に、より効率的な練習ができる ようアドバイスを行いました。

そして、3月11日、12日の2日 間に亘り、再び近藤講師を招聘し、 カンボジアにおいて初めてとなる 障がい者のための短距離の陸上競 技会を開催しました。設備や器具 が整っていない中、100m、200m、 400m、800mの種目を、義手・義 足・知的障害・視覚障害のカテゴリー に分かれて実施することができまし た。出場した障がい者ランナーは、 競技志向の人から、陸上を始めたば かりの人までさまざまでしたが、そ れぞれのレベルに合った形で参加で

きました。ルールの厳格性 や機材の不足などの課題も ありましたが、障がい者ラ ンナーが自らの能力を発揮 できる場となり、参加者が 楽しめる大会となりました。 閉会式には教育・青年・ス ポーツ省のハン・チュオン・

ナロン大臣も出席されました。

本プログラムは、JICA の短期青年 海外ボランティア隊員である筑波大 学の大学院生2名と学群生2名が、 パラリンピック委員会や障がい者陸 上連盟、メコン大学と協力して、事 業をサポートしてくれました。

今後もこのような大会を継続的に 開催するためには、運営能力の向 上や資金集めなどが課題になります が、ハート・オブ・ゴールドは引き 続き、より多くの障がい者がスポー ツを通じてより良い社会を築いて いけるよう事業を進めていく予定で

\*本事業の動画がご覧になれます。 https://youtu.be/GYpYm7u0Gf4

ハート・オブ・ゴールドは、2017年 10月 10日から 20年目に入ります!

#### 【JICA 草の根技術協力事業】

## 「カンボジア王国中学校体育科教育指導書作成支援・ 普及プロジェクト」開始

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

ハート・オブ・ゴールド(以下、 HG) は JICA 草の根技術協力事業の 委託を受け、2017年1月から、カ ンボジア教育・青年・スポーツ省(以 下、教育省)と協働で中学校体育科 教育指導書作成支援・普及プロジェ クトを開始しました。

2016年12月に、HG が教育省と 共に作成した学習指導要領が教育 省に認定され、体育科で教えるべき 内容が定まりました。しかし、子ど もの頃に徒手体操や簡単なスポーツ の授業しか受けておらず、2年間の 教員養成校では学習指導要領とは異 なる内容しか学んでいない体育教員 が、学習指導要領を読んだだけで内 容を理解し体育授業を実践すること はできません。学習指導要領に書か れている「態度・知識・技能・協調 性」を子ども達が身につけるために は、体育教員が質の高い体育の授業 を実施していくことが不可欠であり、 そのためには体育教員にとって分か りやすい指導書を作成することが必 要になります。

2017年2月には指導書作成を推 進する委員会(中央委員会、運営委 員会、技術委員会)が結成され、3



ワークショップでのグループワーク

月には、教育省内の国立体育スポー ツ研究所 (NIPES: 教員養成機関) 及び学校体育スポーツ局(DPESS: 現場教員育成・モニタリング担当)、 州教育局の関係者を集め、体育を普 及するためのそれぞれの役割を明確 にするワークショップを開催しまし た。

3月23日には、西山が教育省の 年次会議に出席し、カンボジアの教 育全体の中で体育が担う重要性につ いて発表を行いました。



岡出先生を招いてワークショップ

4月19日から21日には、日本体 育大学の岡出美則教授を招聘し、指 導書の体裁や内容の統一性を図るた めにワークショップを開催しました。 3日間のワークショップで、領域・ 種目間で統一性を保つことや内容の 記載方法などを技術委員会がグルー プワークを通じて自分たちで考えな がら確認することができました。

6月7日から9日には、NIPESで、 約10名の教員と100名の2年生の 学生を対象にワークショップを開催 しました。NIPES は二年制で、中学・ 高校の体育教員を養成するカンボジ アで唯一の機関です。NIPES で新し い体育を教えられるよう、そして学



NIPES でのワークショップ

生が卒業後に配属される学校で新し い体育を教えることができるように なることを目指しています。

今後の活動としては、9月までに 技術委員会が7領域・20種目【フィ ジカル・フィットネス(レクリエー ション、体力テスト)、リズム運動 (クメール体操、エアロビクス、創 作ダンス)、伝統スポーツ(ボカタオ、 ペタンク)、陸上(走、跳、投)、器 械体操(マット、鉄棒、平均台運動)、 水泳(水指導、クロール、平泳ぎ)、 ボールゲーム(サッカー、バスケッ トボール、バレーボール、卓球)】 の第1稿を作成し、プノンペン市、 バッタンバン州、スヴァイリエン州 において実際に教員に使ってみても らいます。そのフィードバックを踏 まえて修正を加え、11月の本邦研 修を受けて、さらに修正を加えてい きながら 2018 年 9 月までの完成を 目指します。

## ハート・オブ・ゴールドの職員になりました プロジェクト・アシスタント 米山 遥香

2015年4月から2年間にわたって、 ハート・オブ・ゴールド (以下、HG) 東 南アジア事務所でインターンとして活動 してきましたが、2017年4月からは職 員として採用が決まり、引き続きカンボ ジアで活動することになりました。

インターン時代には本当に多くの学び がありました。特に小学校体育科教育支 援事業ではカンボジア各州を周り、実際 に現場で体育の授業を見ました。教師の

ほとんどが小学生だった頃 に授業らしい授業を受けていないため、指 導することはとても難しいと思います。し かし現場では、ハードルを水道パイプで 作ったり、コーンを色紙で作ったりとカン ボジアにない道具は工夫し、分からないこ とは教育省担当官や HG スタッフに積極的 に質問するなど、HG がカンボジア教育省 アに普及されていると感じました。カン ボジア全国への普及はまだ時間がかかる と思いますが、これからも見守っていき たいと思っています。また、障がい者ス ポーツ支援を通して様々な経験をしまし た。今後も継続的な支援を行っていくた めにカンボジア人スタッフや関係者と協 力し、日々模索していきたいと思います。

これまで活動を続けることができたの は応援してくださっている皆様のお陰で あると実感しています。この経験を活か してもっと成長できるようこれからも頑 張っていきたいと思います。今後とも応 援よろしくお願いいたします。

と協力して10年間プロジェクトを続けて

きた甲斐があり、少しずつ体育がカンボジ

## 教育・青年・スポーツ省が独自予算で小学校体育普及のための研修会を実施

カンボジア王国小学校体育科教育支援事業 プロジェクト・マネージャー **手束 耕治** 

ハート・オブ・ゴールドは2006年からカンボジア教育・青年・スポーツ省と協力して小学校の新しい体育の普及に取り組んできました。その結果、省の内部に人材が育ち、2013年から省の独自予算で講習会を実施、2015年からは指導書を印刷し全国の7000以上の小学校に配布するようになったことは大変すばらしいことだと思います。

講習会は5日間の日程で、内容はこれまでJICA事業で実施してきたものと同じです。最初に、年間計画、学年別計画、時間割、指導案作成の理論と実習、続いて、バスケットボール、器械体操、バレーボール、リズム運動、サッカー、陸上の理論と実

習を小学校低学年と高学年に分けて学びます。

対象者は州および郡の教育局の体育・スポーツ課職員のほか、郡の中からモデルとなるクラスター1校を選抜し、その校長と先生6名(1年から6年まで各1名)です。

教育省の統計(2015-2016)によると、カンボジアには現在、7,085校の小学校があり、すべての小学校は1,264のクラスター(学校群)に属しています。平均すれば、1クラスター当たり5.6校です。1クラスターは中心となるクラスター校と数校の衛星校、分校で構成されています。

教育省は全クラスター1,264の内、

全国の203郡・市・区(165郡、26市、12区)において、それぞれ1校のモデルクラスター校(全203校)を選抜して、まずそこに新体育を普及する計画です。

カンボジアには1都24州ありますが、これまでに年間数回の講習会を実施し、本年6月には首都のプノンペンを除く24州での講習会が完了します。

7000 校以上の全小学校に新しい体育を普及させるためにはまだまだ多くの課題が残っています。しかしながら粘り強く着実に取り組み、すべての子どもたちが新しい体育を楽しむ日が来ることを願っています。

## 小学校の運動会

カンボジア小学校体育科教育支援の補完事業 プロジェクト・オフィサー **ケオ・ソチェトラ** 



2013年から、ハート・オブ・ゴールド (HG) は、カンボジア教育・青年・スポーツ省と共に、以下の3つの目的の運動会を普及しています。
1.体育教育の成果を発表すること
2.スポーツ文化を生涯楽しむこと
3.学校と地域の連携を強化すること
2017年4月1日に、シアヌークビルのチアシム小学校の運動会に参

加しました。先生が40人(女性: 24人)と生徒が1245人(女子: 640人)の小学校です。実は、今年は主導する先生がおらず、前の校長先生も定年になったので、運動会を行う予定はなかったのですが、HGのスタッフとして協力し、地域トレーナー(小学校体育科教育の地域責任教員)を中心として、運動会ができることになりました。生徒達もその両親も運動会を楽しみました。来年も行う予定です。

# 「開発と平和のためのスポーツ (SDP)」 研修に 参加しました プロジェクト・オフィサー ケオ・ソチェトラ

3月4日~8日に東京で、国連 SDP事務局とスポーツ庁主催の「SDP プロジェクト管理研修会」が開催され、スポーツを通じた開発事業を実施している海外と日本の団体から14 名が参加しました。

私はハート・オブ・ゴールド(HG)がカンボジアで実施してきた体育科教育事業についてビデオを見せながら発表し、グループディスカッションで、HGの事業がなぜ成功したのかと聞かれた際には、カンボジア側担当官、日本人専門家、HGスタッ



フが良い協力関係を作り上げて目標に向かって進んだことを第一に挙げました。また、専門家による講義や参加者によるプロジェクト提案発表会も行われました。SDP 関係者と良いネットワーキングができました。

### NHK ワールド(国際放送) で放映されました

NHK ワールドの "Side by Side" という海外向けのドキュメンタリー番組で、ハート・オブ・ゴールドの体育科教育支援事業が取り上げられました。日本と現地での取材に基づき、事業関係者へのインタビュー、カンボジアの小学校の運動会、先生や子ども達の変化、中学校事業の指導要領認定式などが盛り込まれた "Field Days" というタイトルの 30 分番組が、2月8日、9日に、NHK BS1 とインターネットで放映されました。

## ======== (NCCC)

プロジェクト・オフィサー 高島 公美

17名(女子11名、男子6名)の子ども達が、毎日元気に過ごしています。今期もたくさんの方に NCCC にお越し頂きました。

1月は、岡山学芸館高校・清秀中学校の生徒達が、子どもたちに、楽しい時間と支援物資のプレゼントをくださいました。大きいお兄さん・お姉さんとの交流は、大切な思い出として、子ども達の記憶に残っています。

3月には、NCCC 卒業生のサオピアが子ども達の髪を切りに来てくれました。長い髪にあこがれるカンボジアの子ども達ですが、サオピアの髪を切る



様子を興味深く眺めていました。

そして、4月からは、藤はなさんが、 大学を休学して、シェムリアップ事務 所でインターン活動を開始しました。 足しげくNCCCに通い、子ども達と触 れ合いながら学んでいます。

#### 赴任のご挨拶

高島 公美

2016年12月よりシェムリアップ 事務所で勤務しています。日本国内 では保育士をしていました。また、 さまざまな国で幼児教育や初等教育 の支援を行ってきました。NCCC を 始め、日本語教育に関わる多くの人 達に、本当の自立支援を、微力では ありますが、サポートをしていきた いと考えています。そのためのご助 言を、どうぞ、よろしくお願いいた します。

NCCCは、間もなく夏休みに入ります。 子ども達は日本からのお客様を心待ち にしながら、日々を過ごしています。

## シェムリアップ日本語教室

#### ◆ BBU 大学 日本語講座

京都民際日本語学校所属 HG 日本語教師 渡邊 格

2015年10月にBBU大学で開講された日本語講座では、大学生だけでなく多くの社会人が熱心に日本語を学んでいます。また、カンボジア人スタッフへの日本語教育の訓練も進められており、岡山学芸館高校への留学経験を持つカン・ナモイさんと王立プノンペン大学日本語学科を卒業したコル・ソティアラさんが日本語教師として教壇に立っています。

シェムリアップはアンコールワット に代表されるカンボジアの一大観光 都市で、日本人観光客も多く訪れるため、ホテルのスタッフやタクシードラ イバー、日本食レストランの従業員と いった人たちも授業を受けに来ます。 観光客としての日本人を見て、日本人 が好きになり、日本語の勉強を始めた 学生もいます。さまざまな目標をもっ て勉強している姿を見て、教える側も 頑張らなければという気持ちになります。

クラスは現在、AからEまでの5 クラスで、約20名が学んでいます。 半数以上が社会人で、時間を見つけ ては勉強に来ていますが、仕事をし ながらでは厳しいようで、午前と午後 のクラスを同時開講するなどの対策も 試みましたが、継続が困難な学生も 多く見られます。継続しやすいように 新しい取り組みを考えていきます。

クラスはすべて初級クラスで、文型、漢字等を始め、クラス活動ではゲームや個々の発表もしています。活動の時間は学生たちもとても楽しそうです。一番長く続いているクラスはAクラスで、1年以上になります。学生は2名だけですが、一生懸命に勉強しています。8月頃に初級が終わり、初中級のクラスに移行します。初中級は、文型中心の初級と違い、会話が中心になり、さらには文化や政治の



ことなど、難しいテーマの会話が増え てきます。

日本から見学に来られる方々は学生たちには先生以外の日本人と話す機会となり、良い刺激になっています。今年の1月に岡山学芸館高校の学生と交流した際には、日本のことを新たに知ったり、日本の学生達にカンボジアの今を伝えようと一生懸命に日本語をしゃべったり、有意義な時間が過ごせました。

#### ◆チェイ小学校 HG 日本語教室

チェイ小学校の生徒(6名)と NCCCの子ども(7名)が、月曜日から金曜日まで週に5回、1時間の授業を受けています。スライノッチ、ソティアラ、ナモイの3人のカンボジア人日本語教師が交代で教えています。「こどものにほんご2」の教科書で文型を勉強したり、簡単な漢字を勉強したり、時々クラス活動などでゲームや発表をしています。かる



たや伝言ゲームなどもしています。 活動の時間では生徒たちはとても楽 しそうに参加してくれます。

## 歯科検診

## HG デンタル班 2016 年活動報告 **久保 茂正** (TAO 東洋医学研究会副会長)

スタディツアーの際に実施している 歯科検診ボランティアも3年目となり、 これまで通り、NCCCでの歯科治療、チェ イ小学校での歯科検診と歯みがき指導 を行いました。 さらに 2016 年は、HG デンタル班 11 名(久保、椋梨、寺浦、 伊吹、森山、穂積、佐藤、神谷、中島、 石井、上垣) に加えて、スタディツアー 参加者(11名)も手伝って下さるとい うことで、みがき残しチェックのため の歯垢染色を新たに計画。一般参加の 方々はアシスタントとして各教室で子 ども達への歯ブラシや手鏡の配付、み がき残しチェックのための歯垢染色剤 の配付、紙コップへのうがい用水道水 の配給と洗口後汚水の回収、それに検 診や歯みがき指導の補助をしてくれま した。



屋外検診:4 グループ同時進行です

活動の様子を詳しく報告します。

12月2日:午後から NCCC を訪問。 歓迎式典後、デンタル班は子ども達の 歯科検診と歯みがき指導を行いました。 まず、これまで治療した歯の状態と新 たにむし歯ができていないかを確認し ました。これまでは時間の関係ででき ていませんでしたが、今回は歯科記録 用カメラを持ち込み、歯や歯肉の状態 だけでなく、噛み合わせまでを記録す ることができました。今後の治療計画 に役立てたいと思います。グループは 予防班と治療班に分かれ、予防班は歯 垢染色によるみがき残しチェックと歯 みがき指導、フッ素塗布を、治療班は 2台のエンジンを使って2つの椅子に 分かれ、充填や抜歯処置を行いました。 これまでの治療と毎日の歯みがき効果 により、新たに治療が必要なむし歯は 少なく、抜歯数は年々減少しています。 初年度はほとんどの子ども達の抜歯を したことがウソのようです。



皆真剣に鏡を見ながら歯みがきしています

12月3日:チェイ小学校で幼稚園児 96名、小1~小6年生558名、合計 654 名の歯科検診と歯みがき指導を行 いました。約半数の先生が替わってお り、昨年同様、まずは先生方に歯科検 診の必要性を説き、検診票の見方や取 り扱い方について説明しました。歯科 検診は屋外で2名一組の4グループに 分かれて行いました。カンボジアの子 ども達は皆お行儀が良くて、検診は順 調に進みました。歯みがき指導は、一 般参加のボランティアがありましたの で、歯垢染色剤を使ってみがき残しを 確認してから行うことにしました。自 分なりに一度歯みがきした後、みがき 残しを染色し、確認してもらって、み がき残し部位をさらにキレイになるま で歯みがきするという方法です。各テー ブルには、歯ブラシ以外に、水を入れ た紙コップ、廃液用の紙コップ、みが き残し確認のための手鏡を配付。終了 後にはその回収が必要になるため、ボ ランティアの皆さまに協力して頂き、 大変スムーズに進められました。日本 からノートパソコンとスピーカー、簡 易プロジェクターを持ち込み、「歯みが きサンバ」という動画を使って、サン バのリズムと歌に合わせて上下左右と 順番にみがいていく歯みがき指導は子 ども達に大ウケで、どの教室でもアン コールの希望が出て2回ずつやりまし た。世界共通、子ども達は映像と音楽 が大好きで、皆ノリノリで歯みがきで きることが解りました!協力して頂きま したすべての方々に感謝申し上げます。

#### 今回の検診結果は以下のようになります。

世界的なむし歯の評価基準になる ものに DMFT(1 人平均むし歯数)と いう数値があります。D (未処置う蝕 歯; decayed tooth) と M ( 喪失歯; missing tooth; because of caries) と



模型を使って「歯みがきサンバ」

F(う触が原因で処置された歯; filled tooth) の総和を人数で割った数で、要するに 1 人当たりのむし歯経験値です。 幼稚園から小 6 までの 654 名中: むし歯のないものは 8%、むし歯罹患率は 92%。

2015年: 幼稚園から小6まで 対象者 680人のDMFT = 7.4。

2016 年: 幼稚園から小6まで 対象者 654 人の DMFT = 7.1。

一人平均7本以上のむし歯があり、乳 歯のむし歯治療はほとんど行われてい ないことがわかります。2015年の7.4 本から2016年は7.1本に減少してお り、むし歯予防効果が現れているでしょ うか。

12 才時 DMFT (永久歯列が完成する 12 才が世界的比較対象) を見てみる と、2015 年:6 年生 4.0、5 年生 5.6 が、2016 年:6 年生 4.3 に。2015 年に5 年生だった子どもは 2016 年には6 年生になっています。その間 DMFT は5.6 から4.3 に減少しており、むし歯予防効果が現れているでしょうか。

HG デンタル班は 2017 年も活動する 予定です。12 月のスタディツアーでボ ランティア活動をして下さる方を探し ています。歯科関係者かどうかは問い ません。協力して頂ける方は HG にご 連絡下さい。



HG デンタル班 2016

最後に、歯ブラシなどの支援物資を 提供して頂いたタカラベルモント(株)、 ライオン(株)、SUNSTAR、(株)ビー ブランドメディコ、サンデンタル(株)、 (株)トミヤ、伊藤歯科器材(株)に感 謝申し上げます。

#### 第27回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン

プロジェクト・アシスタント 米山 遥香

今年も、アンコールワット国際ハーフマラソンで優秀な成績を収めた2名が招待されました。幼少期に誤って脱穀機械に手を入れてしまったために右の肘から下を切断したウク・サンポアスさん(男性・30歳)とポリオにより幼い頃から右の肘から下が麻痺しているヌゴン・ラタナさん(女性・37歳)です。昨年同様、ハート・オブ・ゴールドのスタッフで日本語教師を

しているカン・ナモイさんが通訳として同行し、4月16日に開催された大会に参加しました。サンポアスさんは10マイルの部で1時間22分、ラタナさんは5kmの部で27分05秒と、2名とも無事に完走しました。この経験をカンボジアでも活かして、さらに活躍する選手になって欲しいと思います。



#### 第37回篠山 ABC マラソン大会

3月5日、「日本遺産のまち 丹 波篠山を走ろう!」をテーマに、大 会としては久しぶりの好天候に恵ま れて開催されました。

多くの方々が好タイムで完走され

ました(完走者 7.000 人余)。

今回、HG ブースの隣に荷物一時 預り所が設置されたお陰で、例年よ り多くのランナーの方にグッズ販 売並びに募金にご協力頂きました。



#### 第7回淀川国際ハーフマラソン

3月26日、大阪の淀川河川公園 にて「カンボジアの学校に体育用品 を送ろう」の支援レースとして開催 されました。

スタート時は薄曇りで、ゴール時 には小雨になりましたが、まずまず のコンディションでした。スタート 後は、3km ファミリー、10km, ハーフの各参加ランナーに、有森代表の激励声援が鳴り渡っていました。

尚、本年も多くのランナーの方々 にグッズ販売並びに募金にご協力頂 きました。



## 2017年 Arimori Cup

5月21日、北海道むかわ町穂別で、「喜びを力に」を基本コンセプトに開催されました。

快晴の中、4 コース(3km, 5km 強、10km, 親子)に道内各地から 380 人が参加し、3 歳児(親子の部) から 90 歳(5km)までの参加者が、 「くじけず、あきらめず、がんばる」 の大会テーマのもと、全員完走。中 学生による実行委員が運営に当たる 全国でも珍しい手作りの大会です。

尚、HGオリジナルグッズ販売並びに募金活動も実行委員が行いました。



## 第33回みしま西山連峰登山マラソン

5月28日、前日からの雨も、開会式が終わった頃には上がり、さわやかな気候の中で、小・中学生403人を含む過去最高の961人がスタートしました。大会前には、幼稚園から高校生までが、大人と一緒にコースの草取りやゴミ拾いをするそうです。

HG 長岡クラブが3年前からこの大会に協力し、チャリティーマラソンとなり、カンボジアの子ども達へ寄附を頂いています。HG 長岡クラブはブースを出し、グッズ販売や募金箱を設置。有森代表のチャリティーサイン会も実施しました。



#### ボランティアリレー

#### 髙﨑 順子

恒例のアンコールウォーキング大会出発の広場に集まっているカンボジアの子ども達 100人の前に私は立っている。子ども達は、渡されたばかりの私の縫ったお土産袋を隣同士で比べながら笑顔いっぱいで、挨拶



しようと立っている私は声を発することが叶わなかった。 でも、あんなに喜んでいる子ども達を目にして胸がいっ ぱいになり、限りない喜びに包まれた。

今から16年前に、子ども達に差し上げるお土産を入れる袋が日本のスーパーで使われている半透明のポリ袋と知り、胸が傷んだ。小さい時から縫物が好きだった私は、子ども達に布袋を渡してあげようと思いいたった。手芸店が小学生の給食袋等のために可愛らしい模様の布地を販売する2月に手芸店を廻って布地を入手した。真夏の暑い日もいとわず百余枚の袋を縫い上げ続けた。

子ども達の喜ぶ笑顔!笑顔!終生忘れない喜びとなった。

高齢をいとわず、子ども達からもらう喜びに浸りながら、これからも布袋を縫い続けよう。



## 3.11 子ども animo プロジェクト 宮野森小学校落成式

宮野森小学校は、津波で全壊した旧野蒜小学校と宮戸小学校が統合された小学校です。「森の学校」をコンセプトに、東北の木材 5000 本を使って復興の象徴として高台に建てられた校舎で、1月9日に盛大な落成式が執り行われました。有森代表も参加し祝辞を述べました。今後は地域の防災拠点としても活用されることになっています。ハート・オブ・ゴールドは、JSファウンデーションの支援を受けて、昨年11月に、太陽光街路灯5基を福島クラブの監督のもと、校舎の周囲に設置しました。

## 東日本会員交流会

4月16日、かすみがうらマラソン終了後、34名が参加し、カンボジアランナー2人と通訳のナモイさんを迎えて交流会を開きました。参加者の自己紹介では、今後HGの活動支援に当たって自分ができることを皆さんがアピールされ、活発で楽しい会となりました。

#### 主な活動報告 (2017年前半)

- 1/7 岡山学芸館 SGH チーム・カンボジア研修受入 (シェムリアップ)
- 1/9 宮野森小学校落成式出席(宮城)
- 1/12-3/20 筑波大学より青年海外協力隊員受入(プノンペン)
- 1/13 JICA 草の根・中学校体育科教育支援事業開始 (カンボジア)
- 1/22 岡山 ESD フォーラム 2017 出席
- 1/24 岡山学芸館清秀中学校研修受入(シェムリアップ)
- 1/30-2/1 障がい者陸上トレーニングワークショップ開催 (プノンペン)
- 2/3,13 スカイプ交流 (NCCC と第三藤田小)
- 3/3-9 平和とスポーツのための国際研修参加(東京)
- 3/5 篠山 ABC マラソン (兵庫)
- 3/11-12 障がい者陸上短距離競技会開催 (プノンペン)
- 3/23 カンボジア教育省年次総会にて報告(プノンペン)
- 3/26 淀川国際ハーフマラソン(大阪) HG 西日本会員交流会(大阪)
- 4/16 かすみがうらマラソン (茨城・土浦) HG 東日本会員交流会 (東京)
- 4/23 百間川ふれあいフェスタ (岡山)
- 4/30 アニモ・チャリティバザー (岡山)
- 5/12 アニモの会(岡山)
- 5/21 Arimori Cup マラソン大会(北海道・穂別)
- 5/28 みしま西山連峰登山マラソン(新潟・長岡)
- 6/20 HG 総会・理事会・会員交流会(岡山)

#### 主な活動予定 (2017年後半) 変更あり

- 7/4 奈良県経済倶楽部・講演
- 9月 HG 長岡クラブ 総会(新潟)
- 9月 HG 福島クラブ 総会・交流会(福島)
- 9/24 たまの親子チャリティラン in おもちゃ王国 (岡山)
- 11/2 中国地区小学校校長会・代表講演
- 11/13-16 JICA 草の根・中学校体育科教育支援事業関係者 本邦研修(岡山)
- 11/26 富士山マラソン(山梨)
- 11/30-12/4 HG スタディツアー(シェムリアップ)
- 12/1 アンコールウォーキング(シェムリアップ)
- 12/3 アンコールワット国際ハーフマラソン
  - (シェムリアップ)
- 12/23 山陽女子ロードレース (岡山)

## 西日本会員交流会

3月26日、淀川国際ハーフマラソンの後、グランフロント大阪の「旬穀旬菜」にて31名の会員が参加し開催されました。代表のHG活動報告に続き、久保茂正氏

